

## 答が合っただけで○でいいのですか？

— ゆきづまる学力／ある「教育メソッド」の批判 —

2022. 5. 7 (土)

1つの正解が、いろいろな考え方の結果として現れます。

正解に導いた考え方がどの型の問題でも正解に導くかどうかはまったく保証できません。とりわけ、学習経験が浅い小学生段階では問題の表面だけを見て我流の考え方で問題を解いていることがあり、その解き方が次のステップの学習を阻害することすらあります。

「答が合っただけで○」式教育方法の危険性がここにあります。

この危険性について、実際にあった例を紹介しましょう。



少し古い話になりますが…

平成18年9月2日、NHKの朝7時のニュース。

文科省の外郭団体である総合初等教育研究所が全国の小中学生1万1千人を対象として計算力の調査をしたと報じ、その問題点を解説していました。

とりあげた問題は、小学5年の範囲の小数のかけ算で  
 $0.7 \times 0.4$ 。

今回の調査では、5年生の正答率は55.5%で、前回の調査（1998年）のときよりも21.4ポイントさがっているということでした。

ほとんどのまちがいの答は、「2.8」ということでした。

### ◀●■ 算数の授業：シーン・その1 ■●▶

物語で紹介しましょう。

お話は、小学3年生のときから始まります。

先生：「 $2.5 + 3.4$ のできる人はいますか？」

A子：「は～い！」

先生：「では、黒板のところにでてきて、計算してちょうだい。」

A子：「  

$$\begin{array}{r} 2.5 \\ +) 3.4 \\ \hline 5.9 \end{array}$$

先生：（ぱちぱちぱち）「たいへんよくできました。

今度は、ちょっとむずかしいよ。

ひき算です。 $4.23 - 1.05$ ですよ。

A子ちゃん、できますか？」

A子「もち…！（ $\hat{o}$ ）

$$\begin{array}{r} 4.23 \\ -) 1.05 \\ \hline 3.18 \end{array}$$

先生：「おお、すばらしいですね～エ。」

(Bachi, Bachi, Bacha…!?)

A子ちゃん、強烈な成功体験を得て、小数大好き少女になりました。

大好きなものだから、いっぱい、いっぱい小数のたし算とひき算を練習しました。

### ◀●■ 算数の授業：シーン・その2 ■●▶

さて、時は流れてA子ちゃんも5年生になっています。

大好きな小数の計算がまたまた始まります。

校庭の桜の花のごとく、わくわくして…

先生：「きょうから小数のかけ算のお勉強です…

2.3 × 6のできる人はいますか？」

A子：(わくわく、ドキドキ)「…！」 (\*^\_^\*)

先生：「そうだ、A子ちゃんにやらしてもらおう…！」

\* 飛ぶように黒板の前まで走り、おおきな字で

$$\begin{array}{r} 2.3 \\ \times) 6 \\ \hline 13.8 \end{array}$$

先生：(bacha, bacha, bacha, …)「まだ習っていないのに…、

A子ちゃん、すごい、すごい…！」

A子ちゃん、小数の成功体験はもう完璧に固まりました。

小数の神様です。何でももってこい…！です。

さて、夏休みもあけました。

また、大好きな小数の勉強があります。

夏休みの間に、たくさんの、たくさんの小数のかけ算を練習しました。

### ◀●■ 算数の授業：シーン・その3 ■●▶

さて、残暑尾を引く教室です。

A子：「小数のかけ算…、やるんでしょ？」、A子、先走ります。

先生：「そうか、A子ちゃん、小数のテストはいつも百点だから…

うれしそうだね。」

A子：(Niko, Niko, Nikkoniko!…)

先生：「よう～し、A子ちゃんにやらしてもらおうか。

0.7 × 0.4。」

\* 例の、文科省の調査のいわくつきの問題ですよ…！ (\*^\_^\*)

A子：(絶大なる自信を胸に、大きな、大きな文字で…)

$$\begin{array}{r} 0.7 \\ \times) 0.4 \\ \hline 2.8 \end{array}$$

**じゃじゃじゃ・じゃ～ん！**

くどくど解説は不要ですね。

このショックのあと、A子ちゃんがどうなったかおわかりですね。

「算数大嫌い少女」になりました…。

そして、こうした「A子」が日々何人も生まれ続けているのです。



強力な成功体験に裏打ちされるとまちがった考え方が強化されます。その結果、その考え方から抜け出ることができなくなります。

「自分で考えることが大切」と言われます。しかし、創造性と我流はまったくちがいます。小学生段階ですと圧倒的に「我流」の考え方で見かけの特徴をもとに考えます。事の本質を見抜くなどまだできません。だから、答えは、答だけ合ったら○とするとたいへん危険なのです。

中学生になっても、途中の計算を書かなかったり、書いても答案のすみに小さな文字で書き、後できちんと消してしまう子が多く見られます。常に、考える過程をブラックボックスにしておき、どこがなぜ間違うのかを問うことのない学習の積み重ねが、計算の不安定、応用力欠如という結果を生み続けます。



小学生だからこそ、考え方の過程をきちんと書かせ、頭の働かせ方をチェックしながら指導してあげる必要があるのです。

そして、そのような頭の働かせ方が見えるようにした教材を使って学習させるならば、お母さんもお子様の頭の働かせ方を見ることができ、家庭で算数の正しい復習指導をすることができるのです。

**「思考力」を専門的に学べる数専ゼミの算数・数学教室です。**

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)